## (3) 吝嗇な者同志の駆け引き

昔々、或る所に一人の水の泳げない吝嗇な仲がおったとの事。或る日此の仲が「爺様ぁー川に落ちて溺れ掛かっているぞぉー」と言う知らせを受けて、慌てて川へ行って見ると、なる程『おやじ』は盛んに「あっぷ　あっぷ」して、今にも溺れ死にそうになっていたそうです。然し泳げない仲はどうすることも出来ず、唯、川岸を行ったり来たりしているだけでした。

「誰か泳げる人が来てくれないものかなぁー?」と思っている所へ、幸い一人の泳げる男が通り掛かったので、此の男に『おやじ』を助けて貰うように頼んでみたところ、その男は「お前は幾ら出す?おらぁー百文出さねば嫌だでや」と言うので、吝嗇な仲は「どうか七〇文にまけてくれ」と願ってみたら「いやおらぁー　一文もまけられねぇ」とのこと。これに困ってしまった仲は「それなら八〇文出すから、どうか『おやじ』を助けてくれ」と再び頼んでみました。ところが川の中で「あっぷ　あっぷ」しながら、此の駆け引きを聞いていた父親は、こら〝仲〟あと一文も出すでねぇーぞぉー」と怒鳴っておったけどやぁー……。